

ハンディをささえる
モノづくり通信

みんなで考えみんなで育てる

A black and white photograph of a man with glasses, wearing a dark suit jacket over a patterned shirt and tie. He is standing in front of a whiteboard, looking upwards and to the right. His hands are clasped in front of him. The whiteboard is on the right side of the frame, and the background is a plain wall.

考えているかと思えるものがある。

例えば、車いすの必要スペースは電動車いすの増加にもかかわらず見直すことも必要ではなからうか。

視覚障害者用に点字案内板を設置されているが、視覚障害者はそのブロックのある場所がたはした判るのだろうか。点字ブロックの黄色がけはほぼいいとして目立たないグレーに塗られている例があるが、カラーを決めるのはなるおしやれ感覚能力ではな人間の知覚能力を研究して決めるべきである。車いすのために、歩道と車との段差をなくすと、視覚障害者には、その区別がわからない。

視覚障害者のために点字人や目黒車の手を雨の日には滑って危ない。歩道を広くすると、かえって自動車がその上に駐して、歩きにくくなってしまう等々特定の人にとってのバリアを考えると、それが今後は他特定の人の人にとっての新たなバリアを生み出している場合もある。これを防ぐためには、すべての人にとって快適な安全なサインを自覚させねばならない。

は、みんなが幸せになるために皆でかんがえるデザインだと考えている。

(記・木村多加緒)

(記・木村多加緒)

あけましておめでとうございます

昨年は、机卓の確保や部会活動
 を目標に掲げたにもかかわらず、実現
 出来なくて、研究会の皆様方には、大
 変申し訳なく思っております。

本年は、身を引締めて頑張りまゐり、
皆様方のご支援とご協力をお願い
申し上げます。



福祉機器・住宅研究会
代表 杉浦史郎

退院患者の住宅改造800件

生活上の障害は改造で解決できる

11月の学習会は2日(土) 大府教育会館で開催さ
良二郎氏です。

研究所 研究第一課 課長相

良一郎氏です。

れ、講師は兵庫県立総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり工学研

兵庫県総合リハビリテーションセンターでは、72年

シヨンセンタ

から退院患者の家庭復帰を支援するために指導に取り組んできた。

電磁波
原発の事故などで出てくる放射線やレントゲン撮影に使うX線が電磁波であることはよく知られていますが日本では、もっとエネルギーの低いものを一般的に電磁波と呼んでいます。電磁波の中で一番ポピュラーなのが太陽の光であり、生き物に太陽光を受けて生きていけるのだから、電磁波は、我々人間には影響がないと思われているのですが、最近に

た。 例えは、電気カミソリ、ヘアドライヤー、テレビのブラウン管、電子レンジ、高圧電球から出る電磁波が人体に影響を与えることが研究調査の結果わかってきて、特に小児ガンの発生率に関連があるのではないかと言われています。

のですが、最近に

何かがあるならばその原因となるものを無くしていけばよい。機能障害、能力障害は個性が高く、対応は極めて難しいが社会的不利益は与えなくて済むことが可能である。

93年研究開発部門として「国内では、まだまだハード面の整備が遅れている。今後人材育成をはじめとしたソフト面の開発を求められたい」としている。個人が街へ出掛け、街の中

（注）高齢者や障害者を
含むすべての県民が安全
かつ自由に移動し活動で
きる社会を構築すること
を目的に、県、市町、県民
および事業者が一体とな
り高齢者や障害者に配慮
した生活環境の整備を推
進するものとした。平成
15年度に県福祉施設設
け、平成16年度に福祉
医療施設、官公庁施設、
公共の交通機関の施設等
を整備する。また、県民
の生活環境の整備に力
を注ぎ、県民の生活環境
の整備に力を入れること
を掲げている。

例えば、51戸以上の集合住宅では、エレベーターの設置を義務付け、住戸玄関までのバリアフリー化を進めている。戸建て住宅にお

備を進めているが、このな
び、一層の推進を図るため
改正が行われ、平成9年4
月1日から施行される。

(記・澤田)

田澤・記

めざせ！福祉の住まいネットワーク

第5回全国ボランティアフェスティバル大阪に参加

テーマは『人にやさしい住まいとボランティア』



左から小堀氏、坂井氏、井内氏、中北氏



杉浦氏

行政への働きかけも必要

熱い思いで問題点を語りあう

第5回全国ボランティアフェスティバル大阪の分科会が平成8年9月21日大阪府津山市街づくり市民会議福祉住民ネットワーク研究会の坂井登子氏、西宮市のメインストリーム協会から井内ひろ氏、京都から西陣の会高野大秋氏、研究会より副代表の中北智氏、コーディネーターとして当研究会代表の杉浦史郎氏、司会者は都島区社会福祉協議会の石川洋志氏によりシナリオが展開された。

福祉機器と住宅改造の

すきま活動の遊工房

まず司会者より挨拶があり、コーディネーターの杉浦氏より各グループの紹介があり、最初に小堀氏からグループ活動の状況について話があった。遊工房は2年前、住宅改造助成制度ができた時、その運用に福祉機器と住宅改造の講習会を保健所が開催、その時のメンバーを中心に発足した。福祉機器と住宅改造の

現場のビデオが中心

津山市民会議の研究会

次に坂井氏より、活動状況の話があった。街づくり市民会議は、1980年建設省のコープ計画から、街のハード造りのソフト造りのほうが重要と認識し、5つの部会ができた。その中に福祉住宅部会があり、一般市民への呼びかけに14人が集まり、最初2年間福祉住宅の資料を集め、マニュアル作りから始まった。現在会員は60人、建築関係者・ヘルパー・療養士・保健婦・一般市民各5分の1つづつの構成になっている。月一回の例会を開催、二週に一回の現場でのビデオを中心とした住宅改造を検討し、メンバーを決め、現場を訪ね、施工者を決め、できる限り安くするた

学生も活躍

京都西陣の会

次に京都西陣の会より京都府立大学生生活科学部住居学科の水野弘之教授が急用のため出席できず、代わりに出席した同大学院生の高野氏に話を聞いた。京都には西陣ネットワークの会があり、会には現在左京区・西京区・洛南・西陣・山科があり、左京区の会は2年前にできた会、メンバーは水野氏を含む大学の先生方と生徒、建築関係者など。

依頼がくるのが、左京区

熱心に語りあう参加者



障害者も住みやすく

メインストリーム協会

メインストリーム協会は非営利の民間の団体で、障害者を持った人達が今まで施設で生活していたのを、自立した生活がしたいという声があがり、それを実現しようとして協会のシステムを造り始めた。現在スタッフは1人で9人が障害者、井内氏も車椅子の生活だが、民間の家を借りて生活している。色々の制約や理解がなかったりしてなかなか見つ

また福祉機器と住宅改造費がともなう場合は、助成金も活用できる。

また八日市では、田舎の風習や習慣・大家族制の制度のなごりが残っており、長男の嫁問題などが、これが住宅改造以前の大きな問題になっていたと話し

助成金制度の発言に対して、八日市では、反復利用可能な累積制が限度枠内であれば何度でも可能になった。昨年までの制度は、市との検討会で助成制度について意見を交わした中で採用された。

その他新築・増築の助成は提案したがダメだった。高齢者の方が病院から家に戻る前に、改造ができなくてはいけなくて、手続等の関係で工事がずいぶん遅れてしまる例が多いと話し

この中北氏、小堀氏などがボランティア活動についての意義や市民と行政のあり方、建築家としての役割についてディスカッションした。

今後この分科会の縁から、各グループのボランティア活動で、ネットワークを通じて互いに交流をしていくと語りあった。

(記・鴻上)

住宅助成金の申請も

身体状況に応じて

また福祉機器と住宅改造費がともなう場合は、助成金も活用できる。

また八日市では、田舎の風習や習慣・大家族制の制度のなごりが残っており、長男の嫁問題などが、これが住宅改造以前の大きな問題になっていたと話し

助成金制度の発言に対して、八日市では、反復利用可能な累積制が限度枠内であれば何度でも可能になった。昨年までの制度は、市との検討会で助成制度について意見を交わした中で採用された。

その他新築・増築の助成は提案したがダメだった。高齢者の方が病院から家に戻る前に、改造ができなくてはいけなくて、手続等の関係で工事がずいぶん遅れてしまる例が多いと話し

この中北氏、小堀氏などがボランティア活動についての意義や市民と行政のあり方、建築家としての役割についてディスカッションした。

今後この分科会の縁から、各グループのボランティア活動で、ネットワークを通じて互いに交流をしていくと語りあった。

(記・鴻上)

この縁をつなぎ

これから交流を

この中北氏、小堀氏などがボランティア活動についての意義や市民と行政のあり方、建築家としての役割についてディスカッションした。

今後この分科会の縁から、各グループのボランティア活動で、ネットワークを通じて互いに交流をしていくと語りあった。

(記・鴻上)

活動報告

グループホームの設計と

ますます広がる活動の場

住宅改造の相談・大工ボランティアの養成

＊親切、丁寧な説明で住宅改造の相談
10月18日・19日の両日、第3回平野区福祉機器展「くらしのくふうフェスティバル」主催（社福）平野区社会福祉協議会が、平野区民ホールにて開催された。当研究会の活動として、18日は会員の有馬氏、19日は木村、八木（道雄）両氏が参加し、「住宅改造に関する相談（一）」当グループの活動紹介を行った。

主な相談内容は、手すりした改造事例の展示写真パネルを活用し、具体的に解説する一幕もあり、大いに盛り上がりだった。しかし一方では、「この研究会で、見積りしてもらえないのか？」「工事してくれるのか？」「入会して、住宅改造のボランティア活動に参加ができるのか？」といった質問もあった。「住宅改造相談」とは造りかたなどかなり大規模な改造をイメージする人が多く、急きょ木村氏が「手すり一本から気軽に相談を」との張り紙を掲示した。

また八木氏の丁寧で親切な説明には相談者も大層喜んでた。

市営住宅の手すり取り付けの相談には、規則があり即答できず、当研究会の事務局（宇賀神氏）へ問い合わせをしていただくように、パンフレットを手渡しした。

日頃、製作ボランティアとして当会の活動に参加しているが、相談コーナーを担当し、対象者のみならず、ヘルパー等関係者の切実なニーズに接し、また各種助成制度や、当研究会の存在及び活動内容がまだ知られていないことを痛感した。たいへん意義深い展示参加だった。

また人に説明することの難しさや責任の重さを感じ、今後の活動に生かしていかうと思う。

会員の皆さんも各区の福祉機器展に参加し、意欲深いボランティア活動の楽しさを体験しようではありませんか。（企画部新聞）

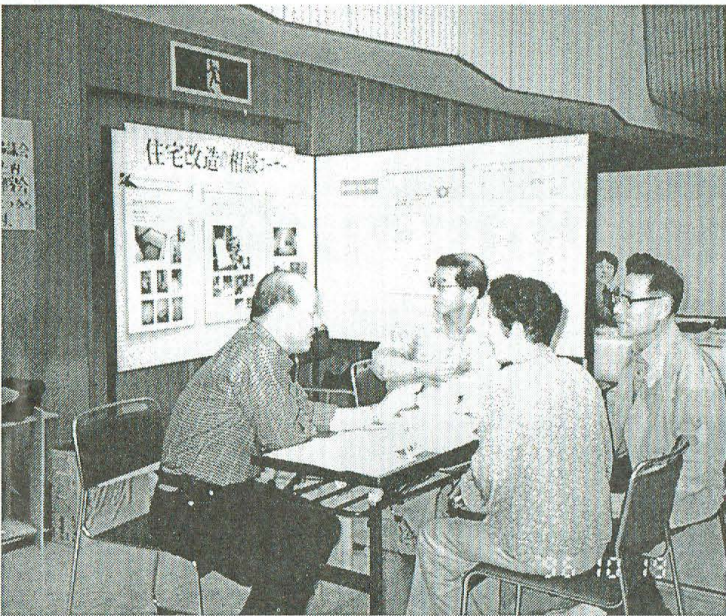
＊三浦副代表が「市長への提案」へ応募し、特別賞を受け10月22日他の受賞者と共に、市長と懇談。会の活動拠点となる日曜大工の作業所の設置を要望

＊熱心な女性受講者
日曜大工ボランティア塾10月12日19日、11月9日16日大阪市協に協力して大阪ハイテクノロジー専門学校にて「日曜大工V講座」を担当。今年は特に初めの2回を「主に女性のための初級講座」として募集

したため、定員をはるかにオーバー、急遽会場を変更した。修業者へのアンケートでは、引き続き受講を希望する人が多かった。

＊10月22日大阪市協主催の「Vコナ相談員研修」に「日曜大工講座のひらき方講座」を杉浦・新聞西氏が担当

＊子どもに大人気
ふれあい広場木工教室11月3日大和川園ふれあい祭に参加、「子ども木工教室」を開きました。親子も熱中、大人気でした。
＊12月14・15日初期診断者研修会を京都にて開催。機構改革、初期診断プロセスは正などを検討。



手すり一本から相談にのる会員



少し不安げな大工見習い



何とか出来そう



教える会員も熱心でした



ふれあい広場の木工教室大賑わい

事務局会議報告

1 会名変更について
現行の「福祉機器住宅研究会」がやや堅いので、これを「福祉と住環境を考える会」とする案が、今春の実施をめどに検討されています。

適切な愛称を募集中です。

2 ATCプロジェクト
（徳永聖一郎氏のATCシヨールム解説への協力について）
たびたび検討が重ねられ

3 大和川園グループホーム
日本財団への補助金申請も事前の協議ではこのほか順調。財団は非常に前向きで、レスパイトケアの組合せにも積極的判斷（地域交流スペース）を示し、期待がふくらんでいる。

4 希望の家
作業所各方面の折衝を鴻上氏が鋭意努力中。
大阪市の補助や融資などが内定しているが、なお公式なごうさいには至らず、難航している。

5 ほたるの苑
既に上棟し、3月竣工の運び。会員を募って、大いにその利用を活性化したいもの。

6 市長へ要望
三浦副代表、市長への提案が取り上げられる。

7 故上田氏からの寄贈
故上田氏が愛用された大工道具一式が会に寄贈される。

8 初期診断者懇談会
12月14日15日に実施。

9 その他
この間に会が取り組んだ左記の企画について、その都度、その準備や反省を討議した。

全国ボランティア会議、日曜大工ボランティア講座、住吉区・平野区・北区の福祉祭、大和川園ふれあい祭、大阪ハイテクノロジー専門学校で講座を開講、ボランティアリーダー研修で「日曜大工講座の開き方」を担当。

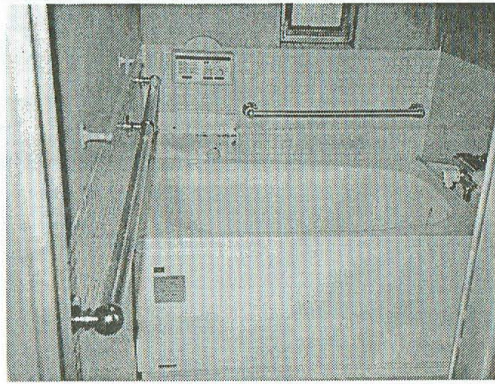
もう夢中です

事例報告

手すりの設置で 楽になったと上機嫌

Wさん・85歳・女性
A 風呂場とトイレに手
すりを付けてほしい。

B 市営住宅の二階、娘人。パーキンソン症候群のため歩行も立ち上がりも緩慢。特に浴槽への出入りは脚が上がらないため困難。
C 底の浅い浴槽が見つかったため、それに取替えてほしい。
D 写真のように、楽々と立ち上がれると機嫌。少し手を貸さねばならない時もあるが、浴槽の出入りが楽になったと喜んでくれた。
事後談だが同じ住宅に住む方々が見に来られ、同じように改善してほしいと三件の申し出があった。

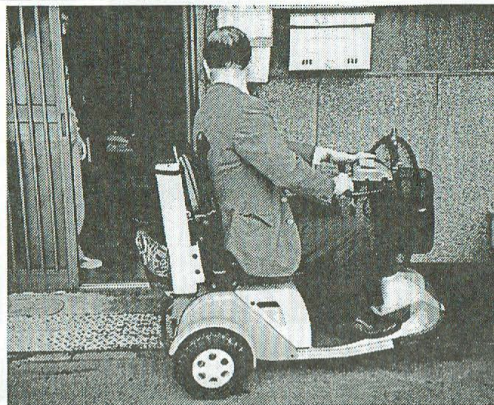


浴槽の出入りも楽に

- A・ニード
- B・日常生活と家庭状況
- C・解決方法
- D・改善後の状況と考察

出入口の安全のために 鉄板をなんとか固定

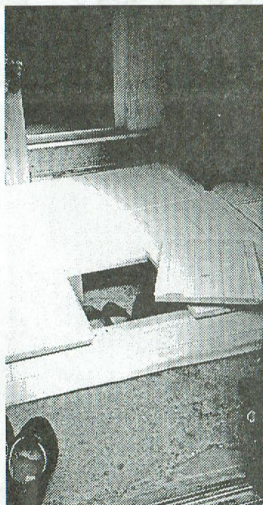
Yさん・66才・女性
A 浴室内に2本、入り口に1本の手すりは設置済みであるが、さらに、2本の手すりの追加を同時に玄関の溝をまたいでいる鉄板の傾斜部が歩きづらく、フラットにしてほしい。
B 扉を開けると浴槽がみえるが、浴槽奥側の浴槽であるが、従来ついていた右奥の手すりに加え、右手前の手すりを追加。



何度も安全を確認

設置予定のモルタル部は芯材がなく設置できず。
C 幸いYさんがより低い位置を希望され、タイル部にとりつけ、浴室入り口から奥まで、右壁面に手すりが連続する形となった。
浴室から出る際に立ち上がりやすくなる手すりが扉右側に必要(左手自由)とのことで、設置。
打合せ時、横向き取りつけ予定が当日、たてむきに変更。施工担当の川上さんの対応で無事設置。
玄関の傾斜部は今回さわらないことになったが、鉄板の一部が溝からはずれやすく、危険のため、なんとかできればというご希望があったため、応急措置として鉄板の裏側に、厚目の板をビス止めして、溝からはずれないようにした。
D とても使いやすくなりました。また、玄関の鉄板も固定され安心して、喜びの声。

靴の収納を工夫 狭くなった玄関に



上がりかまちに靴を収納

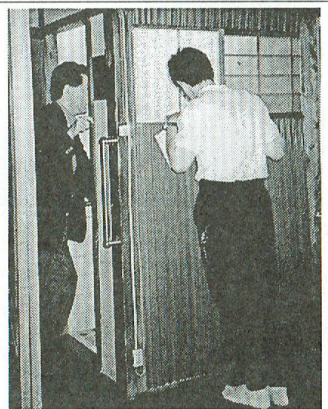
Mさん・81歳・男性
A 玄関が狭く、上がりが

框が、高上に入口から左折れの位置にある。車いすに乗り、妻と二人暮らし。妻は車いすで散歩に連れて行きたいと介護に積極的。
B 痴呆症、肺気腫で寝たきり。妻と二人暮らし。妻は車いすで散歩に連れて行きたいと介護に積極的。
C 玄関の上がりが30センチの高さには、その半分の15センチ高さの框を作り土間に置く。上がる時も下りる時も一旦その框に寄せ回転させる。部屋間の段差はミニスロープで対応。
D 15センチ高さの框を置くことでいきなり30センチの上がり下りは楽になったが土間が狭くなったので履き物の置き場をその框の下に作り、蓋を開け閉めできるようにした。

車いす対応に苦心 古い家屋の改造

Kさん・52歳・男性
A 風呂場とトイレのこと。風呂場の入口にスロープを。室内を車いすで移動できるように、畳の部分や部屋と廊下の段差に工夫と、玄関前は階段を使わず、斜面の植込み部分を工夫して、なんとか車いすで出入りできるようにしてほしい。
また、トイレの出入りを車いすでするために、広くしてほしい。
B 身障一級。進行性多発性硬化症で体幹維持が次第に困難になってきた。母親と二人暮らし。

室内の移動はいさづいていたが、畳地が柔らかく、それにカーペットが追従し、また、滑りやすいため車いすから降りる際に滑り落ちることもあった。予算の関係もあるが、できれば本格的に畳をはがしてフローリングにする方がよいのではないかと思う。

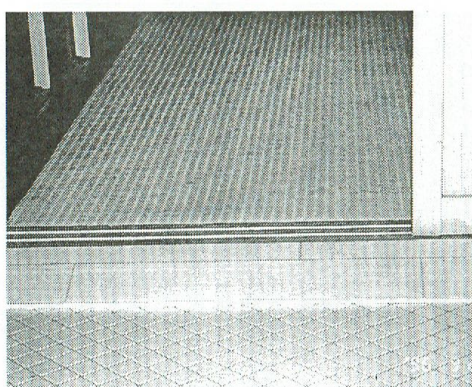


作業療法士のアドバイスで

定例会のお知らせ

《二月》
日時・二月一日(土)
午後二時三十分～五時
場所・大阪市立社会福祉センター302
内容・学習会「米田 福社視察報告」
講師・あおは福祉会 事務局長 田川 康吾 氏
その他・総会・事例報告他

《三月》
日時・三月一日(土)
午後一時三十分～五時
場所・大阪市立社会福祉センター302
内容・学習会「建材は健在か」
講師・藤本木工所・樹望塾長・藤本 増夫氏
その他・事例報告他



部屋への段差も解消